

主題：
諸召会における失敗、召会の墮落、
召会における勝利者、召会の回復、召会の各段階

メッセージ 6

召会における勝利者

(2)

女の中の男の子と、地上における神の収穫の初穂

聖書：啓 12:1-6, 10-11. 14:1-5

- I. 信者たちは、男の子（死んだ勝利者）か、初穂（生きている勝利者）のいずれかとして勝利者であるかもしれませんが——ヘブル 11:33, 39-40. 啓 12:5-6, 14. 14:1-5. マタイ 24:39-42. 啓 3:10. ルカ 21:36。
- II. 女の中の男の子を構成する者たちは、悪魔（訴える者、中傷する者）、すなわち、神の内敵であるサタンに打ち勝ちます——啓 12:1-6, 10-11：
- A. 彼らは小羊の血のゆえに彼に打ち勝ちます：
1. サタンはわたしたちを訴えるかもしれませんが、わたしたちは、神の御子、イエス・キリストの血が、すべての罪からわたしたちを清めると答えることができます—— I ヨハネ 1:7。
 2. わたしたちが告白して血を適用した後も止まらない、どんな明らかな罪定めも、神の照らしではなく、サタンの訴えです——9 節。
 3. わたしたちは理由のない訴えを拒絶しなければならないし、理由のある訴えもすべて拒絶しなければなりません。
 4. わたしたちは罪を犯すとき、神に栄光を帰しませんが、尊い血に信頼しないとき、さらに彼の名を汚します——マタイ 26:28. 参照、ヘブル 10:29。
 5. わたしたちはいつも血を適用して、自分は完全ではないが、完全な血の下にあると悪魔に告げなければなりません—— I ペテロ 1:18-19. 使徒 20:28。
- B. 彼らは証しの言のゆえに、彼に打ち勝ちます：
1. 「証し」は、キリストにある神聖な事実を語り出すことを意味します。わたしたちの証しの言は語り出されなければならないものです——参照、ヨハネ 14:30。
 2. 勝利者たちは頻繁にキリストの勝利を宣言し、悪魔が主によって裁かれたことを証ししなければなりません—— I ヨハネ 3:8. ヘブル 2:14。
 3. サタンは、わたしたちが説得を試みても恐れませんが、キリストの勝利の霊的な事実を宣言するとき、確かに恐れます——参照、歴代上 20:20-22：
 - a. イエスの名がすべての名にまさることは、人に対してだけでなく、サタンに対しても宣言しなければならない霊的な事実です——ピリピ 2:9-11. I コリント 12:3 後半。
 - b. わたしたちは、イエスが主であること、主が勝利を得られたこと、サタンが主の足の下に踏み砕かれたことを、サタンと彼の悪鬼どもに宣言しなければなりません。

ん——創 3:15. ヨハネ 14:30 後半. ローマ 16:20。

4. わたしたちの証しの言はサタンに立場を失わせます——ヤコブ 4:7。

C. 彼らは死に至るまでも、自分の魂の命を愛しません：

1. アダムの墮落のゆえに、サタンは自分自身を人の魂の命、人の自己と結合させました。

彼に打ち勝つために、わたしたちは魂の命を愛するべきではなく、むしろそれを憎み、否むべきです——マタイ 16:23-24. ルカ 14:26. 9:23. ヨブ 42:5-6：

a. サタンはわたしたちが自分自身の力の中で行動し、わたしたちの魂の力、天然の能力をもって自分自身の中で動くことを欲しています。

b. 天然の能力は、わたしたちが本来持っている、十字架の働きによって対処されたことのない能力です。

c. 召会の失敗は人が天然の能力を持ち込んだことによります。

d. 十字架の目的は、モーセやペテロの事例に見られるように、わたしたちの天然の力と能力を対処して、わたしたちがあえて自分自身によって動かないようにすることです——使徒 7:23-30. ルカ 22:32-34. I ペテロ 5:5-6。

e. わたしたちは決して自分の自己によって生きないという態度を持つべきです。わたしたちは自分自身の能力を評価したり、自分に少しも自信を持ったりしません——I コリント 2:2-4. ピリピ 3:3. イザヤ 11:2。

2. わたしたちは自己を犠牲にする人たちであり、注ぎのささげ物となって、天的なぶどう酒であるキリストにわたしたちを満たしていただき、わたしたちを神に対するぶどう酒とならせなければなりません——ピリピ 2:17. II テモテ 4:6. 士師 9:13。

III. 神は彼の敵に敵対する男の子を必要としますが、彼の満足のために、地上で神の収穫の初穂を必要とします——啓 14:1, 4 後半：

A. 携え上げの意味は、主の臨在の中へと入れられることです。主の臨在の中へと入れられるために、わたしたちは今日、彼の臨在の中になければなりません——ルカ 21:36.

II コリント 2:10。

B. 初穂は神に対する新鮮な享受として、シオンにある神の家に携え上げられます。これは神の満足のためです——出 23:19 前半. レビ 23:10. 参照、ヨハネ 20:17 前半。

C. 初穂は神の作物の間で最も早く円熟に達します——ヘブル 5:14—6:1. I コリント 2:6. エペソ 4:13. ピリピ 3:15：

1. 造り変えられることは天然の命において変えられることであり、円熟することはわたしたちを変え神の命で満たされることです——ローマ 12:2. エペソ 3:19 後半。

2. 神の表現のためには円熟を必要とします。円熟した命だけが神のかたちを帯び、神の統治権を行使することができます——創 1:26. ローマ 5:17, 21。

D. 最初に携え上げられた人であるエノクは、生きたまま携え上げられるすべての勝利者の代表です——マタイ 24:37-51. 啓 14:1. ルカ 21:34-36：

1. 死を免れ、神に喜ばれる証しを得る道は、神と共に歩くことです——創 5:22-24. ヘブル 11:5-6。

2. 神と共に歩くことは、神を覆さないこと、出しゃばらないこと、自分自身の観念や願いにしたがって物事を行なわないこと、時代の潮流にしたがって物事を行なわないこと、神なしに何も行なわないことです——参照、詩 19:12-13. ヨシュア 9:14 後半。

ルカ 24:15。

3. 神と共に歩くことは、神をわたしたちの中心、すべてとすること、神にしたがって、神と共に、神の啓示と導きにしたがって生き、物事を行なうこと、彼と共にあらゆることを行なうことです——ローマ 8:4, 13-14. ガラテヤ 2:2 前半. II コリント 5:14-15。
4. 神と共に歩くことは、わたしたちが何であるかによって、わたしたちのできることに
よって生きることではなく、不朽の命、すなわち、キリストご自身によって生きるこ
とを意味します——4, 9 節。
5. 神と共に歩くことは、神と習慣的な交わりを持つこと、主に絶え間なく触れること、
絶えず彼の注入を受けることです——I ヨハネ 1:3. ピリピ 4:6. II コリント 3:16, 18。
6. 神と共に歩くことは、絶えずわたしたちの信仰の霊を活用して、祝福された三一を享
受することです——4:13. ユダ 19-21 節。
7. 神と共に歩くことは、わたしたちの自己と自己によるあらゆるものを否み、わたした
ちが彼と一であることを暗示します。それは、わたしたちが自分自身を彼にささげ、
彼に屈し、彼に先導していただくことを暗示します——マタイ 16:24-25. II コリント
2:13-14。
8. 神と共に歩くことは、信仰によって歩くことです——5:7. ヘブル 11:5-6 :
 - a. 信仰とは、神はあることを信じることです——1-2, 6 節. II コリント 4:13, 18。
 - b. 信仰がなければ、神を喜ばせ、神を幸いにすることはできません——ヘブル 11:6
前半。
 - c. 神はあることを信じることは、彼がわたしたちにとってすべてであり、わたしたち
が無であることを信じることです——ヨハネ 8:58. 伝 1:2。
 - d. 神はあることを信じることは、わたしたちはないことを暗示しています。彼はあら
ゆることでただ一人の方、唯一の方でなければならず、わたしたちはあらゆること
で無でなければなりません——創 5:24. ヘブル 11:5。
 - e. 神はあることを信じることは、わたしたちの自己を否むことです。全宇宙において、
彼はあり、わたしたちはみな無です——ルカ 9:23. マルコ 9:7-8。
 - f. わたしは何者でもあるべきではありません。わたしは存在すべきではなく、彼だけ
が存在すべきです——「生きているのはもはやわたしではありません。キリストが
わたしの中に生きておられるのです」——ガラテヤ 2:20。
 - g. タルソのサウロが回心した時、主は彼に「わたしは……イエスである」と告げられ
ました——使徒 9:5 :
 - (1) 主は言っていました、「わたしは大いなるわたしはあるである。わたしはある方
です。あなたは、わたしはある、あなたはないということ信じなければなり
ません」。
 - (2) 結局、サウロは終わり、パウロが現れました——13:9。
9. これが信仰です——「おお、何も持たず、無であり、何も見ず、栄光の中のキリスト
を生き、地上での主の権益のほかにも何も顧慮しないことの喜び」——J・N・ダービ
ー :
 - a. 信仰は、神を熱心に尋ね求める者たちに報いてくださる方であることを信じるこ
とです——ヘブル 11:6. 創 15:1. ピリピ 3:8, 14。

- b. エノクの褒賞は最高水準の命、すなわち、死を免れることでした——ヘブル 11:5 前半。 II コリント 5:4. ローマ 8:6, 10-11, 5:17。
 - c. 主は報いてくださる方であり、わたしたちは彼を尋ね求める者である必要があります——詩 27:4, 8. 42:1-2. 43:4. 73:25. 119:2, 10。
10. 信仰は、神の言を信じることを意味します——II コリント 4:13. ルカ 1:38. ローマ 10:17 :
- a. エノクは六十五年生きたとき、一人の息子を持ち、彼をメトセラと名づけました (創 5:21)。この名には予言的な意義であり、それは「彼が死ぬとき、それは遣わされる」を意味します。
 - b. エノクは彼の息子をメトセラと名づけることによって、メトセラが死んだとき、すなわちノアの六百歳の年に、洪水による裁きが来ることを予言しました——7:6, 5:25-29 前半 :
 - (1) メトセラは百八十七歳の時にレメクを生み (25 節)、レメクは百八十二歳の時にノアを生み (28 節)、ノアが六百歳の時に洪水が遣わされました (7:11)。
 - (2) これら三人の人物を合わせると、その合計は九百六十九年、すなわち、メトセラが死んだ歳に達します——5:27。
 - c. エノクの予言が発せられたのは、彼が六十五歳の時であり、その時、彼は神の啓示を受けたに違いありません。それは神のみこころに靈感を与えられ、不敬虔な人類世代に対する来たるべき裁きについて知らされました——ユダ 14-15 節。
 - d. それ以来、エノクはその予言の成就を期待していました。この期待は彼をかき立て、彼に時代の潮流に従わず、三世紀の間、日夜、神と共に真っすぐ歩かせ、日々神とより近くなり、神とより一となり、ついに「神が彼を取られたので、彼はいなくなつた」——創 5:24. ピリピ 3:14. 参照、雅 8:5 前半。